

White Board

◇惑星科学夏の学校のご案内

◇人事公募

◇第19回宇宙ステーション利用計画ワークショップ開催

◇惑星科学夏の学校のご案内

今年もまた、夏の学校の季節が近づいてきました。本年度は西はりま天文台と共催で行なわれます。

・日程

7月15日(火)~7月17日(木)

(引き続き17日~19日に電磁気夏の学校が開催されます)

・場所

兵庫県立西はりま天文台

〒679-53 兵庫県佐用郡佐用町西河内 407-2

TEL 0790(82)3886

FAX 0790(82)3514

・交通

姫路駅~姫新線佐用駅~タクシー(10分)

大阪~中国ハイウェイバス佐用インター下車

・ホームページ

<http://www.geo.titech.ac.jp/nakazawalab/wakusei97/wakusei97.html>

・世話人

吉田敬(東京工業大学 地球惑星科学科)

・問い合わせ先

97年度惑星科学夏の学校事務局

できるだけE-mailでお問い合わせ下さい

E-mail wakusei97@geo.titech.ac.jp

TEL 03(5734)2243

FAX 03(3727)4662

・テーマ 「固体微粒子から惑星へ」

固体物質の成長を通して太陽系形成を見ていくことがねらいです。系外太陽系星雲の観測から始まり、ダスト成長と微惑星形成、惑星集積過程、衝突・破壊現象、惑星形成へと惑星ができるまでの過程を理論、観測、実験それぞれの立場から見ていきたいと思っています。

1. 系外太陽系星雲の観測

近年、観測技術の進歩により原始惑星系円盤を数10AUの分解能で観測できるようになり、原始惑星系円盤のより詳しい情報が得られるようになってきました。また最近話題となっている系外惑星の観測に関しても、高解像度観測が盛んになる今後10年間で、非常に進展すると考えられています。そこで夏の学校では原始惑星系円盤、及び系外惑星の観測について2人の方に講演していただきます。原始惑星系円盤の観測では野辺山電波観測所での最新の観測データを含めて、また系外惑星ではその直接検出を目指した将来計画についても紹介していただきます。

2. 惑星集積過程

原始太陽系星雲中でダストが成長し微惑星が作られます。惑星集積論ではこれらの微惑星が衝突、

合体して現在の惑星が形成されると考えられています。この集積過程を記述する方法として2種類の方法があります。1つは全粒子の軌道を計算して接触したら合体させるというN体計算という方法です。もう1つの方法は分布関数の進化を追うという統計的な方法です。これら2つのアプローチ方法による惑星集積過程の計算について講演していただきます。それぞれのアプローチ方法で得られた結果を理解するとともに、未だ解決されていない問題点についても議論します。また、惑星集積後期には微惑星同士の衝突破壊が起これると考えられています。この点から、現在行なわれている衝突破壊実験について講演していただき、惑星集積過程への結び付きについても議論したいと思います。

3. 木星型惑星の形成

木星型惑星(木星, 土星, 天王星と海王星)は、地球型惑星(水星, 金星, 地球と火星)に比べて質量が非常に大きく、またそのほとんどがガス成分で構成されています。これは惑星集積過程において大きくなった原始惑星がその重力によりガスを捕獲した結果であると考えられています。しかし、ガス成分をほとんど持たない地球型惑星が存在することから、木星型惑星の形成においては、大幅なガスを捕獲する何らかのプロセスが必要となります。ここでは、大幅なガス捕獲が生じるプロセスとその条件について説明し、さらにそれが現在の惑星集積理論に与える問題を議論したいと思います。

・講演題目と講演者

- ・系外太陽系星雲(原始惑星系円盤)の観測
百瀬宗武(総研大・野辺山)
- ・系外惑星の観測 –直接検出を目指して–
田村元秀(国立天文台)

・ダスト成長と微惑星形成

中村良介(神戸大・情報センター)

・惑星集積過程 統計的手法

大槻圭史(山形大・理)

N体シミュレーション

小久保英一郎(東大・教養)

・衝突・破壊現象

荒川政彦(北大・低温研)

・木星型惑星の形成

生駒大洋(東工大・地惑)

・西はりま天文台との共通セッション

本年度は西はりま天文台と共通セッションを行ないません。テーマは「カイパーベルトとオールト雲をめぐる」です。カイパーベルトとオールト雲はそれぞれ海王星軌道よりも遠方に位置し、彗星の巣ともいわれています。ここ数年特にカイパーベルトでの小天体の観測が盛んになっています。さらに、「すばる」による観測によってこれら小天体の姿がより明らかになることが期待されます。このセッションでは理論と観測の両方の視点からカイパーベルトとオールト雲について明らかにしていきたいと思っています。

・ポスターセッション

今年もポスターセッションの発表者を募集します。今自分はこんな研究をしてるんだ!とまわりの人たちに知らせる良い機会です。完成した話はもちろん、現在進行中の研究でも構いません。たくさんの方々の参加をお待ちしています。

惑星科学に従事している学生の方はもちろん、惑星科学に興味のある学生の皆様、たくさんの方々の参加を心よりお待ちしております。

◇人事公募

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

地球物理学教室主任 播磨屋敏生

電話 011-706-3576

FAX 011-746-2715

1. 職種・人員：

A 地球惑星物理学講座 教授 1名

B 地球惑星流体科学講座 教授 1名

2. 専門分野：

A 固体地球惑星物理学およびその関連分野

B 地球惑星大気物理学およびその関連分野

3. 着任時期：平成10年4月1日(予定)

4. 応募書類：

(1) 履歴書(学会活動状況についても別紙に付記すること)

(2) いままでの研究概要(2,000字以内, 研究業績との関連をわかりやすく)

(3) 研究業績目録(原著論文・著書・総説と報告書等に分けて記載すること)

(4) 主な原著論文別刷り 5篇(複写 可)

(5) 今後の教育・研究の計画・抱負(2,000字以内)

(6) 科学研究費等の採択状況, 国内外の研究プロジェクト等への参加状況

(7) その他, 学位論文審査の件数(審査年, 主査・副査の別, 博士・修士の別)

5. 応募締切：

A 平成9年7月31日(木)(必着)

封筒の表に「教官公募関係」と朱書きし, 書留にて郵送すること

B 平成9年9月16日(火)(必着)

封筒の表に「教官公募(大気関係)」と朱書きし, 書留にて郵送すること

6. 書類の送付及び問い合わせ先：

〒060

札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究科

北海道大学理学部

1. 職種・人員：

C 理学部附属海底地震観測施設

助手 1名

D 理学部附属地震予知観測地域センター

助手 1名

2. 専門分野：

C 固体地球物理学(海底諸観測に関心のある方が望ましい)

D 広く地震学に関連した分野

3. 応募資格：博士学位を有する者, または平成10年3月までに取得見込みの者

4. 着任時期：決定後できるだけ早い時期

5. 応募書類：

(1) 履歴書

(2) いままでの研究概要(2,000字程度, 研究業績との関連をわかりやすく)

(3) 研究業績目録(原著論文・著書・総説と学会発表等に分ける)

(4) 主な原著論文別刷り5篇以内(複写 可)

(5) 今後の教育・研究の計画・抱負(2,000字程度)

(6) 応募者について意見を伺える2名の方の氏名と連絡先(住所, 電話番号等)

6. 応募締切：

C 平成9年7月28日(月)(必着)

封筒の表に「教官公募(海底地震)関係」と朱書きし, 書留にて郵送すること

D 平成9年9月1日(月)(必着)

封筒の表に「教官公募(地震予知センター)関係」と朱書きし、書留にて郵送すること

7. その他：採用後は北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の地球惑星変動学講座(協力講座)において大学院教育にも携わることとなります。

8. 書類の送付及び問い合わせ先：

〒060

札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究科

地球物理学教室主任 播磨屋敏生

電話 011-706-3576

FAX 011-746-2715

〒812-81

福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部地球惑星科学科

地球惑星電磁圏物理学講座所属助教授

候補者選考委員会

委員長 湯元清文

Tel : 092-642-2673(ダイヤルイン)

Fax : 092-642-2685

E-mail: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

7. 応募上の注意

- (1) 提出書類の内, (4)以外は全てA4用紙を使用すること
- (2) 書類は封筒に「応募書類在中」と朱書きし, 簡易書留で郵送のこと

九州大学理学部地球惑星科学科
地球惑星電磁圏物理学講座

1. 職種・人員 助教授 1名
2. 専門分野 地球惑星電磁圏物理学
3. 着任時期 決定後なるべく早い時期
4. 提出書類
 - (1) 履歴書
 - (2) これまでの研究概要(A4用紙2枚以内)
 - (3) 研究業績リスト(原著論文, 総説, 報告書, 著書に区分)
 - (4) 主要論文の別刷3編(業績リストに○印を付す)
 - (5) 着任した場合の研究・教育に対する抱負(A4用紙2枚以内)
 - (6) 応募者を熟知し, 意見を伺える方2名の氏名と連絡先並びに応募者との関係
5. 公募締切 平成9年7月28日(月)
6. 書類送付先および問い合わせ先

東京大学大学院理学系研究科・理学部
地球惑星物理学専攻

1. 公募の対象

地球惑星進化学大講座の教授 1名
広い意味での惑星科学を研究する人。教育にも意欲のある人を望みます。

2. 着任時期

決定後出来るだけ早い時期を希望します。

3. 応募書類等

以下の書類を郵送して下さい。

- 1) 略歴書(学歴及び職歴)
- 2) 業績目録(レフェリーのある論文と, それ以外の総説等に分けて下さい。)
- 3) 主要論文 3 編の別刷またはコピー
- 4) 者に関する所見を頂ける 2~3 名の方の氏名と連絡先(住所, 電話等)
- 5) 自薦, 他薦ともに, 今後の研究計画・抱負など(A4版1枚程度)

4.応募・推薦締切

平成9年9月9日(火)必着でお願いします。

5.書類送付先並びに問い合わせ先

〒113

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院理学系研究科・理学部

地球惑星物理学専攻

専攻長 飯島 健

Tel: 03-3812-2111 (内 4584)

Fax: 03-3818-0745

応募書類の封筒には「教官応募」と朱書し、簡易書留で郵送して下さい。

◇第19回宇宙ステーション利用計画ワークショップ開催

開催日時:平成9年7月1日(火)～2日(水)

両日とも10:00～17:00

開催場所:砂防会館 シェーンバッハ・砂防

(東京都千代田区平河町 2-7-5)

内容:7月1日(火) 全体会

宇宙ステーション日本取付型モジュール(JEM)の利用などに関する次の講演及び討議

- ・宇宙ステーションの利用計画概要
- ・NASA(米), ESA(欧), CSA(加), ロシアの宇宙環境利用の関する現状・方向性
- ・日本モジュール(JEM)曝露部の利用選定評価の結果などの紹介

7月2日(火) 分科会

微小重力科学, ライフサイエンス, 理工学, 通信, 観測(天体, 地球), 宇宙医学各分野に分れた JEM 利用方針に関する意見交換など

主催: 科学技術庁, 宇宙開発事業団, (財)宇宙環境利用推進センター, (財)日本宇宙フォーラム

参加費: 無料

問い合わせ:

(財)宇宙環境利用推進センター

調査研究部 担当:中野 邦男

〒169 東京都新宿区西早稲田 3-30-16

TEL (03)5273-2442

FAX (03)5273-0705

「遊・星・人」のホームページを作成しました。アドレスは

<http://jsps.toho-jc.ac.jp/pp/>です。現在のところ、総目次・著者索引(ともに第1巻～第6巻1号), 投稿規定等が検索できるようになっております。